

アートとふれあうアトリア

「アートギャラリーアトリア」は、ビール工場跡地の一角に平成18年(2006年)に誕生した美術施設です。幼児期から美術やアートに触れることで、美術好きを増やす、街にアート文化を根付かせたいという目的のもと、主に子ども向けのワークショップを積極的に開催している点が特徴です。ワークショップと展示を合体させた夏休みの企画展は、毎年多くの人で賑わい大盛況となります。

開館当初から、誰もが参加できる年賀状展も毎年開催。「ものづくりの街」ならではの、アートのかたちを見せています。

開館時間10:00~18:00(企画展開催中は変更あり、入館は閉館30分前まで)、月曜(祝日の場合はその翌平日)・年末年始休、無料(一部の企画展を除く)

ゆとりのスペース、ほっこり空間



年賀状展



ワークショップ

アーティストインスクール

川口市周辺アクセス図



川口市経済部産業振興課

〒332-8601 川口青木2-1-1
電話:048-259-9018 FAX:048-258-1161

川口駅西口コース

川口ウォーターフロント 水と芝生と公園と

商業の中心・東口とは対照的に、居住空間としての街づくりが進んでいる川口駅西口。花と水と彫刻がいこいの場所を演出するリアパークを南下し、荒川を歩きます。晴れた日には富士山や秩父連山が見渡せて、気持ちのよい散歩道です。巨大な三領水門を過ぎるとコンクリート工場や新聞工場などダイナミックな景観が続きます。緑川沿いからオリンピック通りに進み、川口七福神をまつる二院をお参り。昭和32年(1957年)竣工の川口陸橋を経てビール工場跡地が生まれ変わったリボンシティへ。美術施設「アトリア」のウッドデッキは絶好のひなたぼっこポイントです。

B-4 リリア (川口総合文化センター)

西口には大正9年(1920年)から60年間にわたって国の旧燃料研究所、通称「ネケン」がありました。その跡地に平成2年(1990年)に開館した文化施設です。タワー棟は高さ83メートル。ドリーミイ姿は、まるで市の花・テッポウユリのように。約2,000席のメインホールと600席の音楽ホールなどがあり、市民利用のほか、有名アーティストの公演も多数行われています。



C-3 荒川運動公園

JR線の鉄橋から戸田市との境にかけての荒川河川敷に設置された公園。広さ3.39ヘクタールにゴルフ場、野球場、サッカー場などがあります。桜の名所だけでなく富士山ビュースポットとしても非常に有名で、空気が澄んでいる秋から冬にかけて美しい富士山を眺めることができます。



C-2 三領水門

荒川の氾濫を防ぐために昭和14年(1939年)に作られた水門で、荒川に合流する葛蒲川の水を排水し、休日には釣り人などでにぎわいます。現在は平成3年(1991年)竣工の2代目が活躍。レンガ造りの初代「赤水門」はメモリアルパークに名残をとどめています。



B-2 吉祥院

創建は不詳ですが、文明2年(1470年)には荒川のほとりにお堂があったと言われています。武州川口七福神の一つに数えられる本尊の毘沙門天は行基菩薩の作で、文明7年(1475年)に太田道灌がおまつりしたと伝えられています。大切な宝物を守る仏さまです。



B-4 リリアパーク (川口西公園)

川口駅西口の目の前に広がる大規模公園。地場産業である緑と鋳物を活用した広場作りが特徴で、ドラマのロケ地によく使われます。夏はせせらぎに水遊びの子どもが集まります。随所に置かれた彫刻のほか、回転式の時計オブジェや大仕掛けの砂時計も楽しめます。



C-2 浮間ゴルフ場

荒川河川敷に作られたゴルフ場。初心者も気軽にプレーできるように設計されました。ホール間に自然が残ります。最長ホールは500ヤード。9ホールのさざんかコースとショートコースのゆりコースがあり、さざんかコースは平日4,400円でプレーできます。



B-1 正眼寺

曹洞宗の寺院。建立当初は天台宗でしたが、江戸時代初期、曹洞宗の名刹、駒込・吉祥寺の一超元易大和尚を迎え、このとき改宗されたと考えられます。寿義人堂は武州川口七福神のひとつ。石龜の背に乗った珍しい廻転七福神があります。



A-3 リボンシティ

80年間操業してきたビール工場が平成18年(2006年)、新たな街に変貌。「まち歩きが楽しい都心空間」を開発方針として、約12ヘクタールに住宅、広場、美術施設、映画館、商業施設が広がります。平成19年(2007年)度都市景観大賞の優秀賞を受賞しました。



川口を育んだ・あらかわ あいうえおのまち! 川口!!

荒川がもたらす産業振興

荒川は、山梨、長野、埼玉にまたがる甲武信ヶ岳(こぶしがたけ)に端を發し、周辺の水を集めながら東京湾に注ぐ川で、全長173キロ。流域には多くの人が暮らす、典型的な都市河川です。

川口の発展は、荒川の流れとともにありました。江戸時代から鋳物業が発達したのは、鋳物づくりに必要な良質の砂や粘土が荒川流域で取れたことに加え、発達した舟運が理由とされています。上流の秩父などから、川口で取れる分だけでは足りない砂や粘土を取り寄せ、できた製品を下流の江戸に出荷していました。

荒ぶる川の大改造

そんな荒川も、ひとたび氾濫すれば流域一帯に水害が広がる、文字通りの「荒れ川」でした。今につながる荒川改修のきっかけとなったのが、明治43年(1910年)の大洪水。東京の下町は泥の海と化し、浸水家屋27万戸、被災者は150万人にのぼりました。翌年から、洪水被害をなくすため、新しい川を掘る工事が行われました。こうしてできたのが荒川放水路、現在の荒川です。

延べ310万人が携った工事は、約20年かかって昭和5年(1930年)に完成。川口市の対岸にある東京都北区の岩淵から河口までの約22キロに、幅500メートルの人工の川が掘られました。

昭和40年(1965年)、荒川放水路は正式に荒川と改称され、岩淵水門より下流を流れていた元の荒川は、隅田川と名を改めました。

貴重な自然をいつまでも

荒川の下流部は人口河川ですが、首都圏でも貴重な自然環境を保っているエリアとして注目されます。

しかし、漂着ゴミや河川敷での不法投棄など、自然環境は常におびやかされています。川を管理する国と地域住民が協力して、清掃活動や、子ども向けの自然観察などが行われ、緑豊かな川の景色がいつまでも見られるよう、人びとの努力が続きます。



雄大な荒川と
ひろびろパークに
ココロ開放

川口駅西口
コース

No.2

川口市マスコット「きゅぼらん」

川口市内観光
ルートマップ



A-3 リボンシティ



C-2 浮間ゴルフ場



A-4 SLオブジェ



A-4 川口スケートパーク



B-4 リリアパーク(川口西公園)